

従業者向け

放課後等デイサービス 評価表 ゆりかご育成センター R7



○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて 記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	5	・動きの激しい利用者がみえる。訓練スペースの基準は満たしているが訓練室「りすの部屋」はもっと広いスペースがあるとよい。利用者の人数を5人までに調整する必要を感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	3	・訓練室「りすの部屋」は障害程度が重い利用者が多く、手厚い職員配置が必要となる。他の2つの訓練室への職員配置において調整が難しくなる現実があり悩ましい。 ・訓練室「ホール」の支援でトイレ介助が必要になる場面が生じた際に補佐の職員がほしいと思うことがある。 ・ただし、りすの部屋の定員調整を行うことで、以前より適切になってきた。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	・床の改修、エアコンの交換など全体としての生活環境の改善は整ってきた。 ・リスの部屋は利用者の体格が大きくなり行動量も増えたためもっと広いスペースがほしい。安全確保と療育の充実のために、一人当たりの空間が狭いと感じることもある。利用者数を減らすことも必要な段階にある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	4つの訓練室以外にも相談室などがあり空間は広い。消毒や清掃などが大変だが、整えるように毎日努力している。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	・エアコンが故障して夏にはクールダウン室として使えなかった部屋がエアコンの買い替えで使えるようになり、休憩できる環境としても整った。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	2	・改善の意見は出され、検討し改善も図っている。しかし、検証してさらに改善につなげていくPDCAのシステムとしては十分とは言えないと感じる。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・保護者の声は大切に職員間で共有を図り、改善につなげるということではできている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・月2回職員会を行い、意見交換や検討を行っている。 ・毎朝のミーティングの質が向上し、そこで出される意見が有効に機能していると感じることが増えた。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	・第三者評価は行っていないが、出入りのある関係者からの意見を引き出すことは大切にしている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・法人内の研修だけでなく、市や県の研修にも職員が前向きに参加していく体制になっている。研修は療育の質を上げるためにも重要だと考え取り組んでいる。

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	2	・作成し公表もしているが、発信が弱い。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	2	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	2	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	・5領域を意識して個別活動・集団活動を展開している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	2	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	・翌日の朝ミーティングで共有を図り、支援の方向も検討している。 ・緊急事案は退勤前に臨時ミーティングを行い支援の方向を検討し共有を図っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	1	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	4	1	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・18才の壁を乗り越えていくために意思決定支援を大切にしている。「はい」「いいえ」という閉ざされた質問でなく、どれを選択するのかを個に寄り添って対応している。 ・発語がない利用者にとどのように意思確認するか悩むことがある。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者を決めることで責任をもって支援計画の作成や連携会議に参加できている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問を行い、情報を共有し、支援の仕方について話す時間を設けている。 ・しかし、現場の直接支援に追われ、学校や関係機関との調整に時間がかかり、遅れがちになっている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者を通じた情報共有は行えているが、既に小学校に就学しているため学校との連携が中心となっている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員を通じた情報提供と共有が主である。難病等があり特に配慮が必要なケースでは、直接事業所間で連携し情報共有を図っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか機会が持てない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員が参加することはあるが、直接支援を行っている放デイ等の事業所には参加の案内が来ない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎をご家族にお願いしているが、お迎えの際に活動の様子や支援を添加した中でのお子様の変化を伝えて共有を丁寧に行うようにしている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	・学習や活動について利用者の様子を見ながら変更することもある。その際には合意形成を丁寧に言い、本人が納得した上で支援を行い、その変更内容や活動の様子をお迎えの際に家族にも伝えている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	・相談には丁寧に対応している。家族支援も推進し加算にもつなげている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	6	・父母の会や保護者会は持っていない。子育て支援・家族支援の一つとして子育てサロンなどが開催できるとよいと検討はしてきたが、行っていない。個別の相談には丁寧に対応している。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	3	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	・言葉と文面で伝えている。その他に写真や映像を保護者に見てもらい、共有を図っている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6	・障がいの特性や程度が様々であり、事業所としてまとまって移動したり参加したりすることが難しく地域連携は進められていない。
非常時等	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	・難病がありてんかん発作が訓練室で発生してしまうことが年に複数回ある。その事案の際には、対象者への酸素投与などの支援と同時に他の利用者を刺激の少ない場所に緊急避難させることも行うと同時に、職員研修も行い避難誘導についても毎回検証を行っている。救急搬送に至る場合もあるが、職員の動きは安定している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	1	・通常の処方については服薬管理も確実に行っている。てんかん発作がある利用者についてもきめ細かく保護者と連携はしているが、家庭で起きた発作や体調不良については一層共有が必要だと感じることがある。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	・医師の指示書というより、保護者からの申し出により処方を確認して行っている。 ・医師の指示書で確認しているケースはない。

守 の 対 応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	・厚生労働省作成のYouTube研修を活用し、非常勤職員も研修しレポートにもまとめている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	・訓練室からの飛び出し防止のためにやむなく一時的に施錠することがある。身体的拘束に該当するため利用契約時に説明し同意書も提出していただき、支援計画にも位置付けている。施錠することもあるが、身体的拘束記録簿にその都度記録している。

保護者向け

放課後等デイサービス 評価表

ゆりかご育成センター R7年度



(保護者の皆さまへ)

○本評価表は、放課後等デイサービスを利用するお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」のいずれかに○を記入していただくとともに、「ご意見」も積極的にご記入ください。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されている と思いますか。	24	1	0	0	・元幼稚園の建物ということで広いです。中庭もあり動き回る傾向がある我が子にはありがたいです。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11	5	5	4	・グループに分かれて活動していると思いますが、職員の方が大変そうに見えるときがあります。どの先生がどの子どもたちを見ているのかわからない。 ・何人くらい職員さんがいるのかわからない。 ・利用する子が多い日とか、職員の人数が少ないのでは？と思うことがある。 ・先生方にはいつも感謝しています。人手不足な状況がどこも大変なので協力し合っていける仕組みがあればと思います。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	4	0	0	【ゆりかごコメント】 *国の職員配置基準は「利用者5名に対して保育士1名以上」です。この基準は常に満たしています。しかし、訓練室により障害程度が違うため手薄になる状況が発生することがあり、主任と管理者が補充に入っています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	3	0	1	・大きな広場で活動させてもらいたい。(小さい部屋の所属なので)
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23	2	0	0	・こどものことを理解して支援してくださっていてありがたいです。
	6 事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19	1	0	5	・一生懸命やっていたことはよくわかりますが、支援プログラムと言われても正直よくわからないというのが本音です。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	24	1	0	0	・先生方は熱心で一生懸命だと感じています。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23	1	0	1	・夕方に迎えに行くと、マットなどを使った運動ゲームや鬼ごっこなどの小集団でのミニゲームや遊びを楽しそうにやっている姿が見られて親としてもうれしいです。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25	0	0	0	
	10 事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	5	0	4	(・合計が24にならない項目は、回答が空白だったためです。)
11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2	1	8	12	【ゆりかごコメント】 *学校休業日に朝から数名の利用という場合に、児童館等に出かけることはありますが、それ以外では対応できていません。	

保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24	1	0	0	・初めにきちんと説明されたことは覚えています、内容は覚えていません。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25	0	0	0	・毎回、きちんと説明していただいています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	3	4	9	・どうしているのか分かりません。 【ゆりかごコメント】 *個別対応となるため、支援が必要でない利用者に対しては対応を行っていません。今後は周知を進めていきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	21	4	0	0	・小さい頃から利用していますが、施設環境整備がきちんとされるようになっただけでなく、先生方の対応や連携がよくなってきていると感じます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23	2	0	0	・面談時間45分以内を強調されていると話づらいです。 【ゆりかごコメント】 *定期モニタリングで相談支援専門員が2時間以上の面談を行うことが多く見られました。面談内容がぼやけるだけでなく疲れるという声が少ないため、45分以内に収めるのが通常であることを示しました。ようやく周知されてきました。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23	2	0	0	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	4	8	8	・保護者会などの場があれば参加したいです。 【ゆりかごコメント】 *当事者同士のつながりは有効です。子育てサロンを行えるとよいという意見は職員の中にもありますが、現場の直接支援に関する職務で精一杯な状況が当事業所の現状です。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	4	0	3	・先生方が子どものことだけでなく子育てについても気にかけてくださっていて、話しかけてくださるのでありがたいと思っています。
	20	こどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	2	0	3	・大体はできているけど、たまに単純な伝達ミスなどがあるのは、お忙しいので仕方がないと思います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15	2	1	7	・忙しいと思いますが、通信や施設内に掲示してある活動の写りがもう少し更新されるとありがたいです。 【ゆりかごコメント】 心掛けます。児童発達支援についてはLINEでの映像提供を令和8年から始めます。放デイについては、来年度検討します。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23	1	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	0	0	10	【ゆりかごコメント】 *「避難訓練」は年2回義務付けられています。当事業所では、難病等があり、てんかん発作が発生するケースが年に数回あります。医療的ケア児への酸素吸入等の対応は研修を受けた職員が迅速に行うと同時に、他の利用者に対しては動揺が生じないように別室移動させます。これも訓練の一つですが、訓練と研修を繰り返しています。消防署への届けも確実にしています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16	0	0	9	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	3	0	5	

	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	3	0	4	・実際にそのような場面にあっていないのでよくわかりません。推測を求める質問は望ましくないとします。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	24	0	0	1	満足度 89%
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	22	2	0	1	
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	3	1	0	【ゆりかごコメント】 *満足していないと示していただいた方もみえますが、ありがたいことです。「現状維持は退化でしかない」と考えており、自問自答し続けていきたいと思えます。 「全ては子どもたちの笑顔と自立のために！」

※1 「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をすることがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2 「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3 「放課後等デイサービス計画（個別支援計画）」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5 「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。

公表

事業所における自己評価総括表 【放課後等デイサービス】

○事業所名	社会福祉法人 英集会			ゆりかご成育センター	
○保護者評価実施期間	令和7年11月14日		～		令和7年12月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数)	25	
○従業者評価実施期間	令和7年11月14日		～		令和7年12月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9	
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月15日				

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の前向きさが強みであり、宝である。4年間離職者を出していない。 「全ては子どもたちの笑顔と自立のために」を理念に掲げ、職員の質の向上に向き合っている。真摯に療育に向き合う「チームゆりかご」の職員そのものが強みである。 1 児童発達支援管理責任者資格 3名 2 相談支援専門員資格 1名 3 医ケア児支援研修修了者 2名 4 強度行動障害支援修了者 基礎1名、実践研修1名 5 社会福祉士資格 1名 6 介護福祉士資格 2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の充実を図っている。 具体的な支援の在り方については、職員会・職員研修会だけでなく、毎朝の職員ミーティングでも常に検討している。 ・外部研修の受講、国家資格取得を職員に推奨している。 令和8年2月の社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に各1名が臨んだ。 ・非常勤職員にも研修してもらえるように、動画による研修や紙面研修を行っている。 ・今年度より言語聴覚士と10年以上勤務のベテラン保育士による専門的支援を個別に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人としての研修システムの構築を目指すことを求め、法人の本部会議で検討していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの訓練室があり、活動スペースの広さは強みの一つである。 ・広さを生かした中庭やテラスでの外遊び活動をプログラムに位置付けられている。加えて、天気の良い日には徒歩5分で行ける畜産センターの遊具を活用したプログラムも行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの訓練室ごとの支援プログラムを準備しているが、その日の利用者に応じた支援を工夫する職員間の連携と共有を大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援プログラムについての検証を積み重ね、「ゆりかごプログラム」「ゆりかごタイム」として構築していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との共有を大切にしている。 連絡帳だけでなく、ご家族がお迎えにみえた際に、良さや課題について具体的に丁寧にお伝えし共有を図っている。 事業所利用満足度が89%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あえてご家庭への送迎を行っていない。 毎回の利用時に保護者との情報共有に心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援では活動の様子をLINEで配信するようになった。放課後等デイサービスの利用家族に対して行うことについて、令和8年度検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・多機能型30人での運営が時代に合わなくなってきている。 10年前にはなかった経営の不安定さが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この10年間で岐阜県の未就学児童数が31%減少したが、特に岐阜市北部では少子化が進んでいる。 支援プログラムをはじめとする強みを明確に構築していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の単位分けを行うことも経営の安定化につながるため、検討を続けていく。
2			
3			